

災害訓練実施報告

総務課 事務職員

小林 航也

市立札幌病院は、平成 9 年より北海道から災害拠点病院として、地域災害医療センターに指定されており、二次医療圏で大規模災害が発生した場合に、地域の拠点医療施設として、24 時間体制で傷病者の受入及び搬出を行うことが求められており、災害拠点病院については、東日本大震災や熊本地震を始めとした大規模災害が近年各地で起こっていることから重要性がますます高まっているところです。

当院では、災害拠点病院としての機能を担うべく、施設の耐震化やライフラインの整備、災害時に必要な備品や食事の整備を行って災害に備えているほか、大規模災害を想定した災害訓練を毎年行って、災害対策マニュアルの見直しを行っております。

今年の災害訓練は、2 月 20 日に行われましたので、訓練内容について、ご紹介させていただきます。

今回の災害訓練については、平日 10 時に石狩沖を震源とする震度 6 の地震が発生したことを想定して行われました。

発災後、講堂にて院長を本部長とした災害対策本部を立ち上げ、通常診療から災害時勤務体制に切り替えることを宣言した後、参集した職員を本部長の指示のもと、各ポストに振り分け、傷病者の受入体制を確立いたします。



災害対策本部の様子

傷病者が来院すると、まず、正面玄関前の風除室にあるトリアージポストに誘導いたします。トリアージポストでは、傷病者ごとに事前に設定された症状に合わせてトリアージタグをつけ、トリアージを行い、緊急度に応じて重症ポスト（赤：緊急治療群）、中等症ポスト（黄：非緊急治療群）、軽症ポスト（緑：治療不要・軽処置群）に振り分け、各診療ポストに誘導いたします。

各診療ポストでは、トリアージポストから次々に運ばれてくる傷病者に対し、診察を行い、検査や処置を行います。

その間、災害対策本部では、施設の損壊状況や空床状況の把握、傷病者リスト、クロノロと呼ばれる時系列活動記録等の作成のために情報収集に努め、集められた情報をもとに適宜必要な指示や判断を行います。

訓練については、事前に各ポストで打ち合わせや事前演習を行うなどしたこともあり、大きな混乱もなく、行うことができた一方、情報収集不足や人手、備品不足などといった課題も多くみられました。

今回見えた課題については、当院の災害対策委員会を中心に検討を重ね、より良い災害対応を行なえるようにフィードバックしていきたいと思っております。

今後も継続的に災害訓練を行い、当院が地域の拠点医療施設として担う役割、使命を自覚し、災害に強い病院作りに取り組んで参ります。



トリアージポストの様子